

今や、私たちにとって当たり前になっていた日常生活は、惑星地球（the Planet Earth）とともに崩壊しつつあるかのようです。この惑星を唯一の住処とする私たちは誰も、そこから逃れることはできません。これからそう遠くない未来に向けて、私たちは、その崩壊に適応していくのでしょうか。崩壊の速度を落せるよう尽力するのでしょうか。そもそも「当たり前」を根本的に変容させるのでしょうか。あるいは、選択肢はあまりないにも関わらず、目をそらし続けるのでしょうか。

二〇二〇年初頭から世界中の教育と社会に影響をもたらした、COVID-19による未曾有のパンデミックは、私たちの身体的な脆弱さだけでなく、経済的・社会的な脆弱さに襲いかかりました。それは新たな問題を引き起こすのみならず、教育や社会がもともと抱えていた問題を顕にしました。医療資源は不公正に配分され、経済の停滞は格差を拡大させ、教育機会の保障も持つ者と持たない者の差を広げました。ウイルス感染を予防する施策は、人から人を遠ざけ、孤立に陥る人々も生み出しました。地球上に生きる私たちは、ともすると自然の脅威から逃れることができるという都市生活の錯覚に陥っていたのかもしれませんが、自然の一部であるウイルスと否応なく繋がっていることを思い知ることになりました。

記録的な猛暑や山火事、あるいは豪雨や豪雪などの気候変動の影響は、近年、とみに顕著です。二〇二五年夏も最高気温の記録が更新され、一〇年に一度といわれるほどの熱波が日常化しています。世界中で繰り返される山火事で、森林や野生生物が焼かれ、時には人も焼かれ、深刻な大気汚染が引き起こされています。過度な降水によって氾濫した川が、人間やそれ以外のものを流し去っています。南太平洋では沈みかけている島々、南米では絶滅しつつある多くの種、

アフリカや南アジアでは干ばつで不足する食料。いずれも一つの国だけで解決できるような課題ではありません。

こうした災害に加えて、人間が起こした戦争まであります。二〇一四年に始まったロシアのウクライナ侵攻は、二〇二二年に本格化し、両国で多くの民間人を含む犠牲者が出ています。そして現在にいたるまで、ドローンが爆弾や地雷をばら撒き、原子力事故を石棺に埋め込んだチェルノブイリ原発までもが攻撃の対象となってしまうました。イスラエルによるパレスチナ侵攻は二〇二三年に新たな局面に入り、ガザ地域は完全に封鎖され、二〇二五年までに六万人から七万人が亡くなったと推定されています。封鎖された地域では、現在も食料が不足し、医療も行き届いていないのとことです。二〇二五年七月末には停戦合意に至りましたが、五月から比較的穏健な国であるタイとカンボジアでも戦争に発展しかねない事態が生じていました。ウクライナの子どもがロシアに誘拐され、ロシアで教育を受けて帰国する頃には、特定の思想を持つとの報道があります。パレスチナでは食事を一切摂れない多くの子どもが痩せ細り、餓死しています。東南アジアの国境の一部では今も難民として基本的な教育権が奪われたままの人々がいます。戦争は惑星地球で人類史とともに存在し続けていたわけですが、その被害をもっとも被るのは、子どもや女性をはじめとする社会的弱者であることも忘れてはならないでしょう。

そして、これまで他国で見られた排外主義の高まりと民主主義の後退は、いよいよ日本にも押し寄せてきたように見えます。二〇二五年七月の参議院選挙では差別的な発言を繰り返した政党が大きく支持を伸ばしました。海外メディアが「日本にも右派ポピュリズムが上陸」などと報道し、日本社会もついにグローバルスタンダードに直面することになりましたが、市民が積極的に公共性を志向するような市民社会は成熟段階にはまだ十分に至っていないようです。既に日本社会の一部は、異なる文化的背景を持つ多様な人たちが構成されており、幼稚園から大学まで教育現場では外国の子どもや留学生の姿が見られるようになりました。匿名のネット空間が憎悪を増幅させる中で、さまざまなかたちでマインリティ性を持つ人々は、排除や差別の対象とされ安心や安全を脅かされています。すべての人の尊厳が守られなければならないという信念は、もはや共有不可能なのでしょうか。

他方で、テクノロジーは驚くような進歩を遂げています。AIと教育に関する状況は、二〇二二年のChatGPTの一般公開によって新たな局面に入りました。しかし、私たちは、AIとうまく付き合える状況にあるのでしょうか。アムネスティ・インターナショナルや国連は、イスラエルによるAI支援型の攻撃が、民間人の安全を脅かし被害を拡大していることを批判しています。AIによって、「当たり前」だった仕事がなくなり失業者が増える一方で、新たな仕事が増えるという予想もあります。誰もがAIがもたらす変化に追従することになるのでしょうか。AIの利用と開発に必要とされるエネルギーは、一つの国家が消費するエネルギーを大幅に超すことが予想されている中、生産性の名のもとに流行に遅れないようにとAIの利用が新たな「当たり前」になるのでしょうか。

このような状況に対して、教育は何ができるのでしょうか。国際的に広く教育と科学と文化を扱う国際連合教育科学文化機関 (UNESCO・ユネスコ) が二〇二一年に発表した報告書『私たちの未来をともに再想像する (Reimagining Our Futures Together)』⁶⁾は、『教育の未来』は、次のように述べています。

一人ひとりの尊厳が大切であるという考え方、すべての人に約束された基本的人権、私たちの唯一の住処である地球の現状。今これらすべてが危機にさらされています。現状から軌道修正し、望ましい未来を想像するために、私たちは、他の人との、地球との、そしてテクノロジーとの関係を早急に見直す必要があるのです。モア・ザン・ヒューマン世界における相互依存関係や、人類の立ち位置とエージェンシーを学び直さなければなりません (UNESCO, 2021, p.8)。

ユネスコは国連の良心と呼ばれることがあり、時にその理想主義ゆえに、現実社会との乖離を指摘されることがありました。奇しくも、二〇二五年七月には再び米国・トランプ政権がユネスコから脱退を最終決定したところです。過去二回がそうであったように、いずれ米国は再加盟するでしょうが、既に米国はグローバル・サウスに対する政府開発援

助の多くを止めており、世界の公正と民主主義の後退を生み出しています。これに乗じて、より権威主義的で世界の覇権を狙う国が影響力を持ちうることも想定されます。このような状況下で、教育の実践と研究はどのような役割を持ちうるのでしょうか。というのも、ユネスコ『教育の未来』は、連帯と協力の教育学を構築し、二〇五〇年の未来に向けて国際的な協働が重要であることを示しているからです。

以上のことから、次号の特集は「崩壊する惑星地球における教育と希望」と題して、教育が普及しても、あるいは普及したからこそ、残虐と不正と差別が横行している現状に、どのように向き合えばよいのかをともに考える機会とします。私たちは、すべての人々と生き物が尊重される持続可能で平和な世界を目指して教育を発展させてきたはずです。国際的な教育研究だけでなく、極めてローカルな環境教育、多様な社会を生きる人たちの尊厳を守る人権教育・セクシユアリティ教育、文化的遺産を保持・保護する多文化・多言語教育、国内外で理想と現実揺れるインクルーシブ教育、交差的 (intersectional) な視点を取り込んだテクノロジと教育といった比較的新しい分野はもちろんのこと、ユネスコ『教育の未来』が唱えるような教師教育の改革、大学の役割、平和教育、教育権保障と生涯学習などにおける「当たり前」のうち、二〇五〇年に向けて何を継続させ、何を破棄し、何を再構築すべきかを考えるための原稿を広く募集します。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

『教育学年報』投稿要領

1 発行予定 二〇二六年八月

編集委員による査読の上、編集委員会で採択の可否を決定します。ただし、外部査読者が査読を行うこともありません。

2 募集原稿の文字数

【タイプ①】 次号テーマ「崩壊する惑星地球における教育と希望」に沿う原著論文】

一六〇〇〇字以内。原稿はA四判（横置き）で縦書き、一頁あたり三〇字×四〇行で作成し、図表・注を含めて、一四枚以内を一六〇〇〇字とみなします。なお、査読の結果、タイプ②の原著論文、あるいは研究ノートとして掲載することがあります。

【タイプ②】 自由テーマの原著論文】

一六〇〇〇字以内。原稿はA四判（横置き）で縦書き、一頁あたり三〇字×四〇行で作成し、図表・注を含めて、一四枚以内を一六〇〇〇字とみなします。なお、査読の結果、研究ノートとして掲載することがあります。

【タイプ③】 研究動向紹介・書評・エッセイなど】

一〇〇〇〇字以内（超える場合は応相談）。原稿はA四判（横置き）で縦書き、一頁あたり三〇字×四〇行で作成し、図表・注を含めて、九枚以内を一〇〇〇〇字とみなします。

3 原稿の形式と送付先

- ① 「MS Word」と「PDF」の二種類（同内容）の電子データで提出してください。
- ② 原稿とは別に、日本語による概要（四〇〇字程度）を付してください。
- ③ 原稿は、論文題目、原稿の種類、投稿者の氏名、所属、住所、電話番号、メールアドレスをお書き添えの上、世織書房メールアドレス〈seori@nifty.com〉へお送りください。メールでのご提出が難しい場合は、世織書房（四五一三―七七一七）までお電話ください。
- 4 投稿内容は未刊のものに限りません。他の学会誌、研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿は受け付けません。ただし、既発表の論文が部分的に組み込まれていてもかまいません。その場合は重複部分を明示し、投稿論文とあわせて参考論文をお送りください。
- 5 投稿論文は各号の採択が判明するまで、他の媒体へ重ねて投稿しないでください。
- 6 締め切り 二〇二六年二月二十五日（必着）
- 7 問い合わせ先 世織書房メールアドレス〈seori@nifty.com〉